

岡山県感染症週報 2026年第23週 (6月1日～6月7日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026年 第23週 (6/1～6/7) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第23週届出分)

第21週	5類感染症	梅毒	1名 (10代 男)
		百日咳	1名 (小学生 女)
第22週	2類感染症	結核	1名 (50代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名 (O157:小学生 女1、O血清群不明:60代 男1)
	5類感染症	梅毒	2名 (20代 男1、40代 男1)
第23週	2類感染症	結核	4名 (20代 男1・女2、80代 男1)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名 (O103:40代 男1、O血清群不明:20代 女1)
	4類感染症	日本紅斑熱	2名 (70代 男1、80代 男1)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1名 (60代 女)
		急性脳炎	1名 (幼児 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (70代 男)
		梅毒	3名 (10代 女1、40代 男1、50代 男1)
		百日咳	3名 (20代 男1、30代 女2)

こまめな手洗い!



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で6名 (定点あたり 0.12人) の報告がありました。
- 急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で2,080名 (定点あたり 41.60人) の報告がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で6名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 0.20 → 0.12人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で2,080名の報告があり、前週とほぼ同数でした。 (定点あたり 41.24 → 41.60人)。詳しくは、「[★急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2026年第23週に2名の報告があり、2026年の累計報告数は27名となりました (2025年の同時期: 17名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』](#) をご覧ください。
4. [日本紅斑熱](#) は、2026年第23週に2名の報告があり、2026年の累計報告数は2名となりました (2025年の同時期: 4名)。ダニが媒介する感染症として、他に[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や[つつが虫病](#) などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」](#) をご覧ください。
5. [梅毒](#) は、2026年第23週に3名の報告があり、2026年の累計報告数は72名となりました (2025年の同時期: 119名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『梅毒について』](#) をご覧ください。
6. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#) は、県全体で72名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.96 → 2.57人)。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、保育園や幼稚園、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。

7. **手足口病**は、県全体で78名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり2.14 → 2.79人）。地域別では、美作地域（6.67人）、備中地域（5.67人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、夏季に乳幼児を中心に流行し、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現します。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。

流行の推移

疾病名	定点あたり報告数		推移	疾病名	定点あたり報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.02	0.10	↗	突発性発疹	0.43	0.71	↗
COVID-19	0.20	0.12	↘	ヘルパンギーナ	0.61	0.89	↗
急性呼吸器感染症(ARI)	41.24	41.60	→	流行性耳下腺炎	0.07	0.00	↘
RSウイルス感染症	0.46	0.39	↘	急性出血性結膜炎	0.00	0.08	↗
咽頭結膜熱	0.36	0.50	↗	流行性角結膜炎	0.17	0.25	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.96	2.57	↗	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	5.29	5.68	→	無菌性髄膜炎	0.00	0.20	↗
水痘	0.57	0.54	→	マイコプラズマ肺炎	0.20	0.20	→
手足口病	2.14	2.79	↗	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.14	0.00	↘	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.20	0.00	↘

【記号の説明】 前週からの推移 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↘ : 減少 増加・減少 : 前週比10%以上の増減

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)*、つつか虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [つつか虫病 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立健康危機管理研究機構\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀

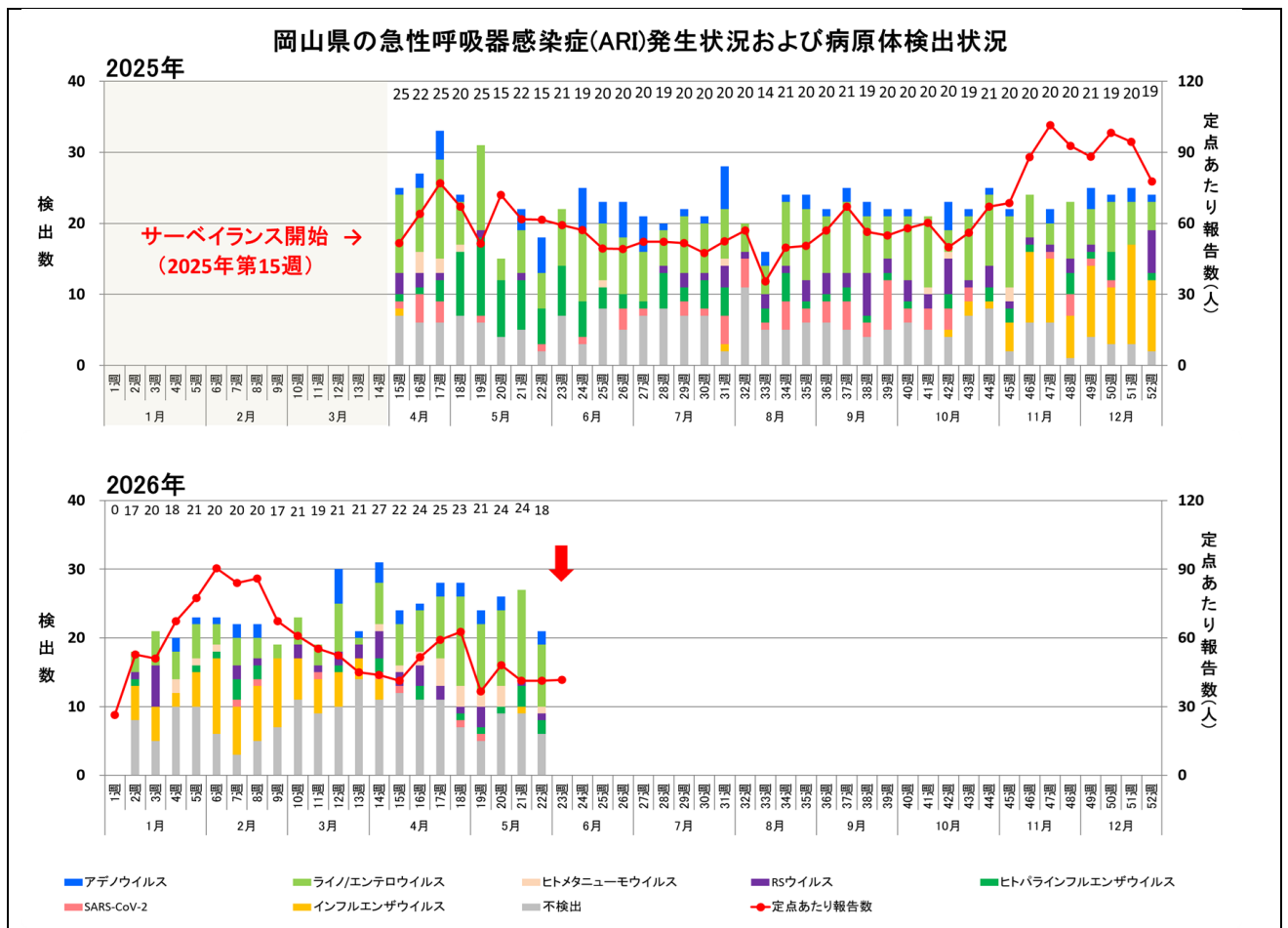


ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第23週（6/1～6/7））



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
 ※1検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
 ※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
 ※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
 ※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,080 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 41.24 → 41.60 人）。地域別では、備中地域（66.20 人）、岡山市（49.94 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

2026 年第 23 週に環境保健センターに搬入された検体はありませんでした。

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）](#)

今週の注目感染症

★A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

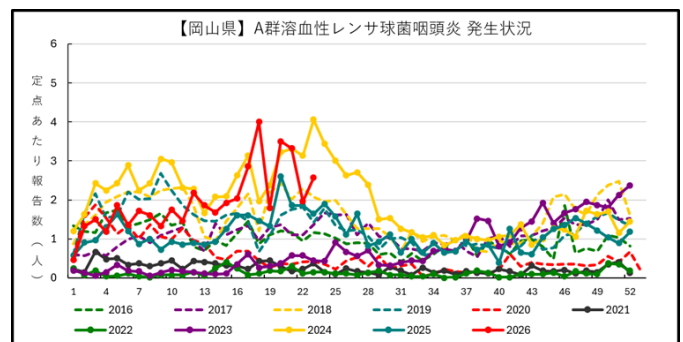
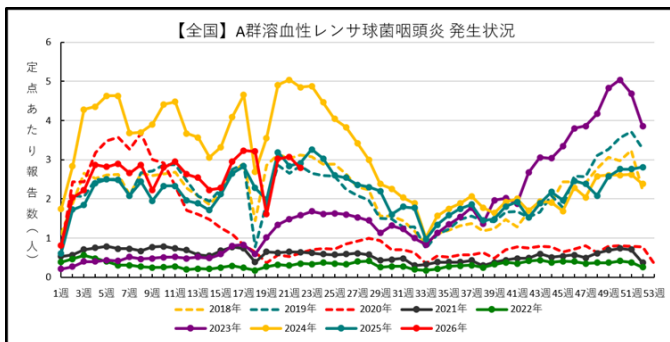
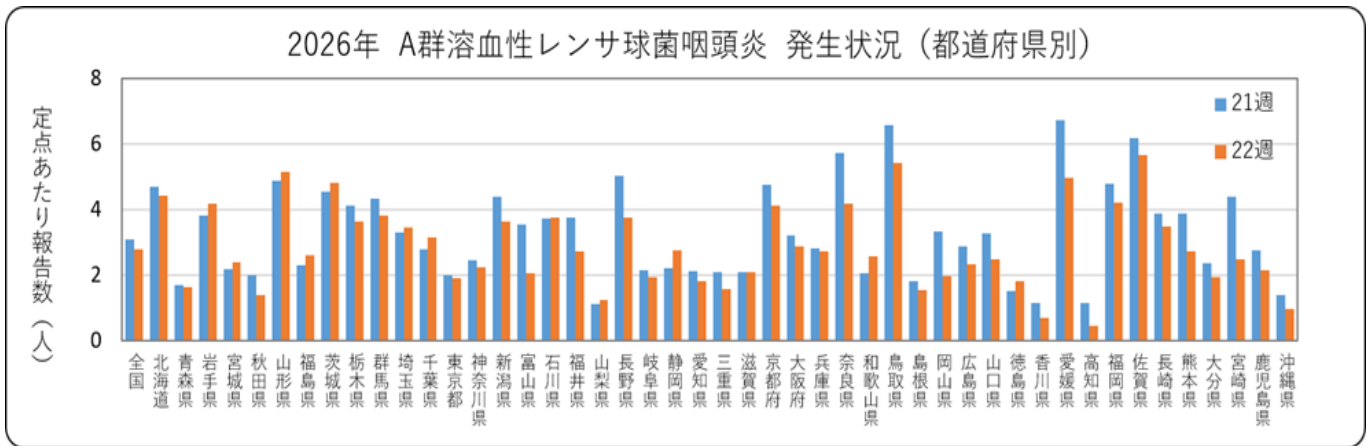
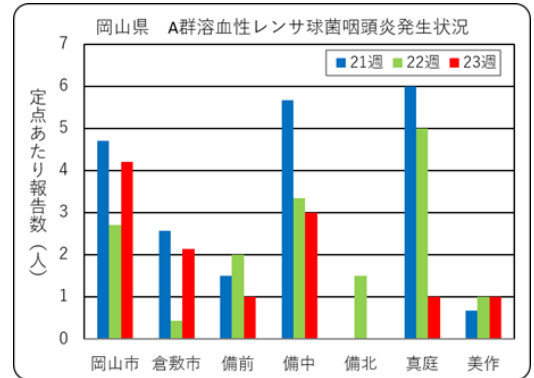
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による呼吸器感染症で、主な感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染です。そのため、家庭や、学校・保育施設などでの感染も多いとされています。

潜伏期は2～5日で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。咽頭炎、扁桃炎のほか、口腔内に点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。通常、3～5日以内に解熱し、主症状は1週間以内に消失する予後良好の疾患ですが、点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現する猩紅熱と言われる全身症状を示すことがあります。その他、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすこともあります。

●発生状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の全国の第22週（5/25～5/31）の発生状況は、定点あたり報告数が2.79人であり、前週（3.07人）とほぼ同数でした。都道府県別では佐賀県（5.67人）、鳥取県（5.42人）、山形県（5.15人）の順で多くなっています。

岡山県においては4月以降、定点あたり報告数が例年より多い傾向が続いています。第23週（6/1～6/7）は県全体で72名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり1.96→2.57人）。地域別では、岡山市（4.20人）、備中地域（3.00人）の順で多くなっています。



●治療・予防方法

治療にはペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合はマクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。発熱、咽頭痛などの症状がみられる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（厚生労働省）](#)

[A 群溶血性レンサ球菌感染症（国立健康危機管理研究機構）](#)

【関連情報】

★劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主に A 群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症です。突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行しますが、劇症型へと進行する理由はいまだ不明です。年齢別にみると 30 代以上の年代で多く発症しています。

全国では第 22 週に 16 名が報告され、2026 年の累計は 607 名となっています（2026 年 6 月 3 日時点）。

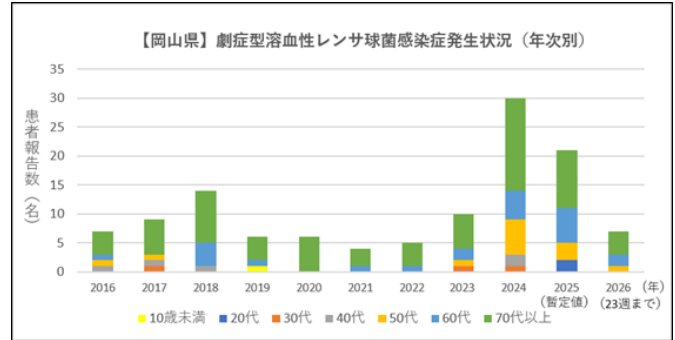
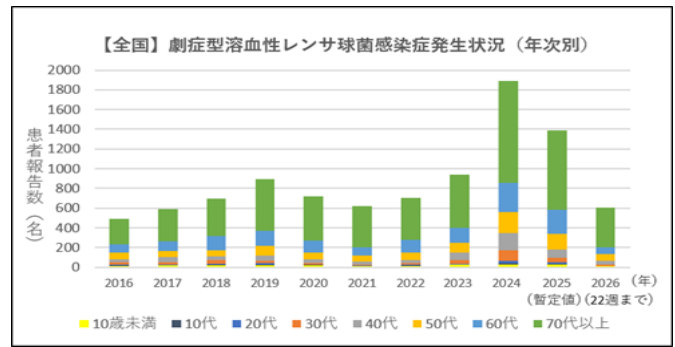
岡山県では第 23 週の報告はなく、2026 年の累計は 7 名となっています。（2026 年 6 月 10 日時点）。

手指衛生や咳エチケット、怪我をした際の清潔な処置等に努め、発熱、咽頭痛や創部の発赤、腫脹、痛みなどの症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（厚生労働省）](#)

[劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（国立健康危機管理研究機構）](#)



国内での麻しんの報告数が増えています

2023 年以降「麻しん（はしか）」の世界的な流行が続いており、海外からの輸入リスクが高まっています。その影響で、国内の報告数も増加（前年同時期比 3.9 倍（2026 年 6 月 3 日時点））しており、引き続き注意が必要な状況です。

発生動向

- ・国内の患者は 10-20 代を中心にみられ、医療機関や学校、公共交通機関など、人が集まる場所での感染も確認されています。
- ・10-20 代の患者では、2 回のワクチン接種が済んでいない方や接種歴不明の方が約半数を占めていました。

お願いしたいこと

- ・麻しんワクチンの 2 回接種が確認できない場合は、医療機関にご相談ください。
- ・麻しんの流行がみられる国や地域に渡航する方は、接種歴を確認し、2 回接種が確認できない場合は、渡航前の接種を検討ください。
- ・発熱、発しん、せき、鼻水、結膜充血など、麻しんが疑われる症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診し、渡航歴や接触歴があればお伝えください。

[麻しん（はしか）（厚生労働省）](#)

海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

[海外へ渡航される方へ](#)

[海外から帰国された方へ](#)



◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

保健所別報告患者数 2026年 第23週(定点把握)

(2026/06/01~2026/06/07)

2026年6月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	5	0.10	2	0.11	2	0.17	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
COVID-19	6	0.12	3	0.17	-	-	-	-	-	-	1	0.25	1	0.50	1	0.20
急性呼吸器感染症	2080	41.60	899	49.94	465	38.75	166	41.50	331	66.20	100	25.00	19	9.50	100	20.00
RSウイルス感染症	11	0.39	5	0.50	3	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1.00
咽頭結膜熱	14	0.50	5	0.50	3	0.43	-	-	4	1.33	-	-	-	-	2	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	2.57	42	4.20	15	2.14	2	1.00	9	3.00	-	-	1	1.00	3	1.00
感染性胃腸炎	159	5.68	92	9.20	25	3.57	5	2.50	20	6.67	9	4.50	-	-	8	2.67
水痘	15	0.54	5	0.50	4	0.57	-	-	2	0.67	3	1.50	-	-	1	0.33
手足口病	78	2.79	22	2.20	14	2.00	2	1.00	17	5.67	2	1.00	1	1.00	20	6.67
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	20	0.71	11	1.10	4	0.57	1	0.50	2	0.67	-	-	-	-	2	0.67
ヘルパンギーナ	25	0.89	13	1.30	2	0.29	-	-	7	2.33	-	-	1	1.00	2	0.67
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2026年 第23週(発生レベル設定疾患)

(2026/06/01~2026/06/07)

2026年6月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	5	0.10	2	0.11	2	0.17	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	0.50	5	0.50	3	0.43	-	-	4	1.33	-	-	-	-	2	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	2.57	42	4.20	15	2.14	2	1.00	9	3.00	-	-	1	1.00	3	1.00
感染性胃腸炎	159	5.68	92	9.20	25	3.57	5	2.50	20	6.67	9	4.50	-	-	8	2.67
水痘	15	0.54	5	0.50	4	0.57	-	-	2	0.67	3	1.50	-	-	1	0.33
手足口病	78	2.79	22	2.20	14	2.00	2	1.00	17	5.67	2	1.00	1	1.00	20	6.67
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	25	0.89	13	1.30	2	0.29	-	-	7	2.33	-	-	1	1.00	2	0.67
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2026年 第23週 2026/06/01～2026/06/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-
COVID-19	6	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2080	213	1093	350	125	35	48	38	29	42	35	36	36

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	11	1	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	1	2	9	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	-	-	1	6	6	13	10	6	4	7	3	15	1
感染性胃腸炎	159	1	10	31	18	12	16	8	7	9	9	5	20	4
水痘	15	-	2	4	2	2	-	-	-	1	1	-	2	-
手足口病	78	3	4	41	17	8	4	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	20	-	4	13	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	25	-	3	14	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

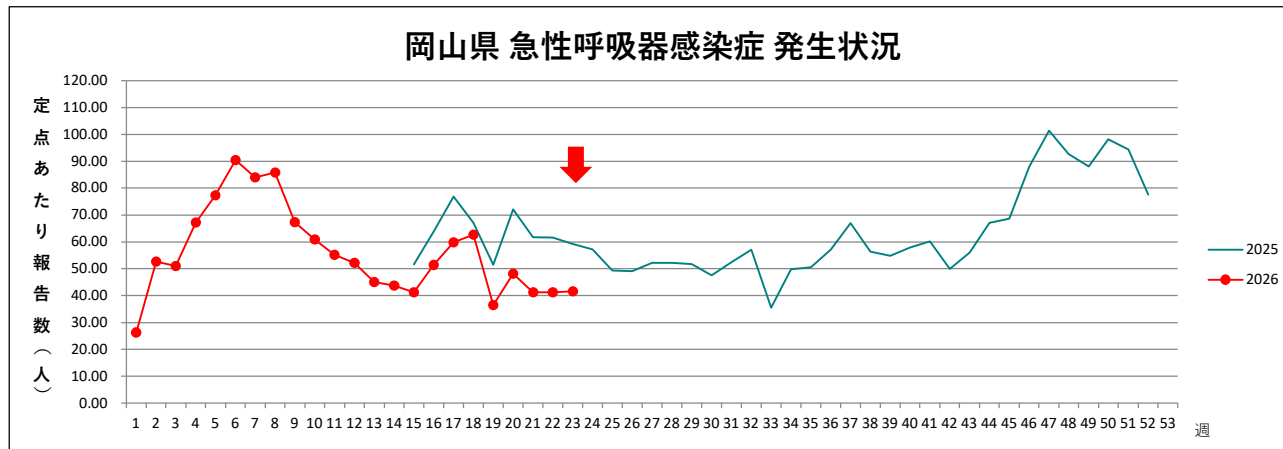
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症 (ARI)	2,080	41.60	899	49.94	465	38.75	166	41.50	331	66.20	100	25.00	19	9.50	100	20.00

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
急性呼吸器感染症 (ARI)	2,080	213	1,093	350	125	35	48	38	29	42	35	36	36

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2026年 第23週

分類	疾病名	2026		2025	疾病名	2026		2025	疾病名	2026		2025
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	107	237	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	2	27	95
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	4	4	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	2
	エキノкокクス症	-	-	-	エムポックス	-	-	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	-	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	8
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	2	2	19
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	18	58
	レプトスピラ症	-	-	1	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	2	8	ウイルス性肝炎	-	-	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	7
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	2	急性脳炎	1	6	14	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	21	後天性免疫不全症候群	-	3	9
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	3	9	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		1	27	55	水痘(入院例に限る。)	-	5	6	先天性風しん症候群	-	-	-
多剤耐性緑膿菌感染症		-	-	-	梅毒	3	72	253	播種性クリプトコックス症	-	-	3
破傷風		-	1	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-
百日咳		3	75	2148	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	5
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-

